

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 環境センター

所管課 水・大気環境課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	猪苗代湖を始めとする豊かな水環境などの保全	猪苗代湖水質モニタリング調査事業	猪苗代湖水質モニタリング調査事業	猪苗代湖流域の詳細な水質調査を実施し、猪苗代湖のpH等成分及び組成の経年変化を把握することにより、猪苗代湖流域の水質保全対策に資することを目的とする。	猪苗代湖及び主要流入河川の水質モニタリング調査や湖内の水温・電気伝導率の連続測定調査により、湖内及び流域における水質の基礎データを得ることができた。水質は、顕著な変化なく推移している。	25	26	B	水質調査により経年的に蓄積されたデータは貴重である。これまでの調査結果を解析・評価することによりpH上昇等メカニズム解明に必要な調査方法を検討し、戦略的に調査を行うことが必要である。	湖沼のpH上昇の要因の解明やpH上昇に伴う理化学的な水質への影響評価に関する研究は、今後水質保全対策を講じる上で大変重要であり、継続して実施すべきである。ここ数年の水質環境基準の達成率の低下はpH上昇に伴い湖沼生態系の変遷も大きく関与していると考えられ、生物学的なアプローチも必要である。一方で、生物多様性は向上しているのではないかとと思われる。今後は、一義的には水質環境基準の達成率の向上が重要であるが、総合的な水質保全の評価を行うための研究課題の設定が必要である。(秋葉)

試験研究機関名 ハイテクプラザ

所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	ふくしまからはじめよう。再生可能エネルギー次世代技術開発事業	再生可能エネルギー大量導入に向けた再生可能エネルギー発電観測システムの開発及び解析	福島県内の各市町村に太陽光発電と風力発電を大規模に導入するような設備計画に対し、年間の発電変動の推定が行えるよう、発電観測システムの構築を行う。	地域の再生可能エネルギー資源に最適化された電源構成を提示し、リアルタイムで再生可能エネルギーによる発電状況を把握可能にし、ビジョンの実現に向けた基本設計を行う。	25	26	A	データ収集方法としては完成し、順調に進捗して研究が終了した。普及に向け、研究成果の継続した活用も重要となるが、当初の目的を達成している。	データ収集・解析手法として完成度が高く、実測したデータも貴重である。FREAA等と連携し、成果が活用されていくよう働きかけ、成果が埋蔵されないようにすることを望む。(佐藤)
3	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	ふくしまからはじめよう。震災対応技術実用化支援事業	大規模災害に係る有害化学物質の洗浄技術実用化	県内製造業、特に福島第一原子力発電所の事故により取引等に影響を受けた企業が、自社の保有技術を活用して、津波等の影響により化学プラント等から流出・飛散した有害化学物質を洗浄・除去する事業分野へ参入するため、技術の検証と高度化を行う。	震災時にも一部で発生した、人による作業が困難とされる有害化学物質に汚染された建屋内の洗浄に着目して、県内企業が保有している独自技術・知見(高圧水洗浄技術、吸着洗浄技術、等)を活用した洗浄システムの試作と検証を行う。	26	26	A	ニーズは増加の傾向にある。今後、提案型かデマンド対応型か対応の選択が求められる。災害以外でも適用できる技術であり、目標どおりの成果が得られた。	災害時以外のニーズが多くあると感じられる。展示会来場者から得たような用途のいくつかにターゲットを絞っての開発(商品化)が、短期間で可能なレベルにあると評価する。実用化の意欲がある企業をぜひ発掘して欲しい。索状ロボットの研究計画に、洗浄ノズルや高圧水供給・排水回収技術の研究開発で得られたノウハウを活かすようにお願いしたい。(佐藤)

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター(本部)
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
4	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	農林水産物の安定供給技術の確立	新奇・難防除病害虫の効率的防除技術の開発	新奇病害虫、難防除土壌病害虫の診断・同定に迅速に対応しつつ、生態解明により、農業生産現場に適応した病害虫防除技術を確立する。	1 ダイズのマメシンクイガの防除適期やイネ苗立枯細菌病のカスガマイシン粒剤の防除効果を明らかにした。 2 ブロッコリーの黒すす病やシュンギク等のハクサイダニに効果のある薬剤を明らかにした。 3 新規発生害虫のユキヤナギハマキフシダニやアカスジキイロハマキの生態や防除法を明らかにした。	23	26	A	現時点での新奇・難防除病害虫への対応は達成したと考えて良いが、農産物の生育環境の変化等により、その時に問題となる新奇・難防除病害虫が発生する。今後とも、これらに的確に対応した研究を進める必要がある。	数多くの病害虫に対して、複数の薬剤による効果の確認が進められ、営農現場への普及が期待される。(信濃)
5	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	県産農林水産物の高付加価値化及び商品化のための技術確立	地域産業6次化推進のための県産農産物の加工技術の開発	農産加工者のニーズを踏まえ、県産農産物の特性を生かした加工技術の開発・改良を進めるとともに、特色ある加工素材を開発する。	①農産加工者のニーズに基づき、県産果実、米粉・穀類や特産農産物の加工技術を開発、マニュアル化するとともに、特色ある農産加工素材の作出を行う。 ②畑作物の新たな加工素材を選定し、現地適応性を明らかにする。	23	26	A	モモ、エゴマ等主要農産物、地域特産物に関する新たな加工技術に関する知見が多数得られており、農業者等の加工付加価値化の取組に貢献してきている。今後も現場にニーズに直結した技術の開発、情報発信が望まれる。	農産物の加工技術開発に関する各種試験が行われ、有用な成果が得られていると感じられました。ただ、それぞれの中課題の関連性(例えば、①米粉パンの試作・開発、②ナツハゼを含むベリー類の抗インフルエンザ活性の検討、③青豆品種及び早生小麦品種、これらの関連性)は、様式3からは少々読み取りにくく、独立した課題のようにも思えました。今後、各中課題の成果を具体的にどのように連携させ、普及につとめていただきたいです。また、参考資料として添付資料をいただき、これらは各研究の詳細を理解するのにとても役立ちましたが、統計解析がされていないものや、参考論文がないものがあり、この点は改善していただきたいです。(仲川)
6	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	本県に適した品種開発・家畜の改良	新需要対応オリジナル水稲品種開発事業	値頃感のある米として中食・外食の用途別需要に対応し、有利販売できる収量性のある県オリジナル品種(新規)を育成する。	DNAマーカーを利用した早期選抜等の新規手法を用いて、育成を効率化しながら品種育成を実施する。	23	26	A	本事業で開発した中山間地向け良質良食味系統(福島30号)が、奨励品種として採用されたところであり、今後の普及や産地のブランド化に向けた活用が期待される。また、コシヒカリ、ひとめぼれ等を対照とした有望な系統も複数得られており、ふくしま米のブランド力の向上に向けた取組継続が必要である。	あきたこまちを基準としてより安定的に多収が可能な品種であり、中山間地域の水田への展開が期待される。その一方で、あきたこまちは県内で3%程度の作付け面積であることから、このような技術がコシヒカリに置き換わるような品種の育成につながる成果と期待される。(信濃)

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター(会津地域研究所)
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
7	生産力と競争力の強化による自給率と所得の向上	省力化・高品質化等の生産技術の確立	会津地域の特徴を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立	会津地域の特徴を活かした攻めの農業を展開するため、会津の弱点をである秋冬期における野菜や花きの生産力を強化する。中山間地の活性化に向け新たな作型や新品種の特성에対応した技術開発を行う。	①アスパラガスの伏せ込み促成栽培における適応品種選定・安定多収栽培技術を確立する。 ②無加温ハウスを利用した秋冬レタスの栽培法を確立する。 ③畑地性カラーの低コスト秋切り栽培技術を確立する。 ④宿根カスミソウの新品種について現地と連携し高温期定植における安定栽培技術を確立する。	23	26	A	アスパラガスの伏せ込み促成栽培技術、カラーやカスミソウの生産安定化と所得向上技術は普及できる成果となり、当初の目的を十分に達成した。おたねにんじんは、今後も産地再生のため種苗生産技術の開発が必要である。	オタネニンジンには需要があっても生産者が急減しているため、安定した栽培技術が求められており、研究が進捗している。地域に適した作目と栽培体型の開発が進められたと判断される。(信濃)

試験研究機関名 農業総合センター(浜地域研究所)
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
8	生産力と競争力の強化による自給率と所得の向上	省力化・高品質化等の生産技術の確立	浜通りにおける大豆、麦類の高品質・安定生産に向けた技術の確立	浜通りの産地拡大や生産者の農業所得を確保する上で、大豆、麦類の高品質・安定多収が重要であり、特に湿害等の発生しやすい浜通り地方における安定栽培技術を確立する。 大豆は、300A技術の現地適応性と難防除雑草対策、麦類は、加工適性の向上のための品種及び栽培法を開発する。さらに、省力・低コスト栽培技術を開発する。	・大豆の高品質・安定多収に向け、300A播種技術による湿害対策等、技術的課題を解決する。 ・麦類の加工適性を高める品種の導入、栽培法を開発する。 ・汎用播種機等による省力・低コスト栽培技術を開発する。	23	26	A	大豆難防除雑草の防除法等の新しい技術知見が得られており、浜通りの土地利用型作物の安定生産、営農再開に向けての技術面での支援に貢献する成果をあげている。	農家の収入安定化のためには水田のみに依存しない輪作体型の確立が必要であり、そのためにも大豆などの生産拡大が求められる。安定的な生産性の確保につながる技術である。(信濃)

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター(果樹研究所)
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
9	生産力と競争力の強化による自給率と所得の向上	本県に適した品種開発・家畜の改良	果樹の新品種育成	本県の地域特性を生かし、ブランド力の高いリンゴ、モモ、ナシ、ブドウ、カキの新品種を開発する。	新品種育成は、モモでは「あかつき」前後に収穫される高品質品種及び半不溶質の肉質を有する品種(2系統)、リンゴでは温暖化に適応した着色良好な高品質品種及び省力的な形質を有する品種(1系統)、ナシでは早生～晩生の高品質品種及び黒星病耐病性を有する品種(1系統)、ブドウでは早生の赤色四倍体無核品種(1系統)、カキでは会津身不知の前に収穫される早生品種(1系統)を育成する。モモ、リンゴ、ナシ及びブドウの育種に有用な中間母本を保存する。	23	26	A	モモ、リンゴについては品種登録(申請)が実施され、ナシについても今後新品種の育成が期待できる。	ブドウの品種育成が達成しなかったのは残念ではあるが、モモ、リンゴの品種登録が進められており、適切な成果があがったと評価される。(信濃)
10	生産力と競争力の強化による自給率と所得の向上	農林水産物の安定供給技術の確立	果樹病害虫の防除法改善に関する試験	農作物病害虫防除指針上改善を要する果樹の主要病害虫や新奇病害虫等について、より有効かつ効率的な防除法に改善し、生産性及び品質の改善を図る。	1 新奇病害虫の発生生態解明及び防除法確立 2 難防除病害虫の防除法確立 3 耐性菌検定や害虫の感受性検定 4 発生予察手法の開発 以上の手法を用いて防除法を改善し効率的な防除法の開発を行う	23	26	A	ナシ黒星病、ブドウのベト病に関する知見や、モモせん孔細菌病の感染時期を特定でき防除法の改善に貢献できた。今後は難防除病害であるモモせん孔細菌の防除法の開発を進める必要がある。	様式3付属資料に示されているデータが主要成果と理解しました。有用なデータと感じた一方で、例えば、図11にはn数や標準偏差が示されておらず、有意差検定が行われていません。また、n数がわからず、有意差検定が行われていません。今後は、統計解析の結果を示すようにしていただきたいです。(仲川)

試験研究機関名 農業総合センター(畜産研究所)
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
11	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	本県に適した品種開発・家畜の改良	「ブランド福島牛」を確立する本県産黒毛和種種雄牛の作出	新たに造成される基幹種雄牛の早期利活用を促進するため、種雄牛候補牛である現場後代検定牛の産子を用い、その育成、肥育及び枝肉特性を解明し、詳細な情報を提供する。	畜産研究所並びに一般繁殖農家において、計画的に交配される現場後代検定牛産子の育成時、肥育時の特性を記録、分析し、枝肉成績と併せて、該当牛の能力を解析する。	23	26	A	候補牛産子の発育状況、枝肉成績の結果を受け、県基幹種雄牛が選抜されるとともに凍結精液が県内に広く行き渡り、県内子牛セリ市場では現状1割強を県基幹種雄牛産子が占める状態である。今後、肥育農家の枝肉成績が判明することで更なる普及が見込まれ、「ブランド福島牛」の確立が大いに期待される。	繁殖農家の経営安定に貢献できる成果が得られていると感じられました。様式3には「平成26年度農業総合センター畜産研究所・研究成果発表会」にて発表されたとのことですが、今後はさらに機会をとらえて成果公表につとめられるようにしていただきたいです。(仲川)

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
12	新時代に対応した活力ある産業の育成(研究開発の促進)	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	地域特産食用きのこの栽培技術の開発と優良品種選抜	中山間地域の振興に寄与するため、自然栽培用品種を選抜し、地域特産品となり得る食用きのこの栽培技術の開発を図るとともに、これまで開発した栽培施設を必要としない栽培技術を応用した栽培方法を開発する。	地域特産品目として期待される、一般には栽培されていない食用きのこ(ホンシメジ、キクラゲ等)の栽培技術を開発する。また、既存の栽培種についても野生菌株等の収集を行い、地域に適した自然栽培用品種の選抜を行う。	22	26	A	ホンシメジの栽培技術、アラゲキクラゲ及びナメコの品種選抜、いずれも農山村地域で容易に取組が可能であり、かつ、有利な生産体系の構築に寄与すると考えられることから当初の目的は十分に達成したといえる。	ホンシメジは、既に瓶等による施設栽培が行われているが、新たに野外覆土発生という、農山村で容易に取組める技術を開発し、その栽培方法に適した品種選抜をした。アラゲキクラゲは、近年国内生産量の増えているきこのことであり(平成25年、乾42トン、生340トン)、さらに高収量・高品質の品種開発が望まれている。ナメコは変異を生じやすいため、新品種開発が必要なきこのことであり、野生から採取した系統からの優良系統の選抜が必須である。菌床でも原木栽培と遜色ない高品質のナメコ生産が可能になった。これらの福島県の農山村地域のきのこ栽培に貢献する技術開発・品種選抜を行ったことは意義深い。(根田)

試験研究機関名 内水面水産試験場
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
13	生産力と経営の強化による自給率の向上と所得の向上	内水面養殖における高品質・省力化技術開発試験	ドジョウの初期飼育技術の開発	魅力ある農山漁村形成のため、農水連携により地域の特性に合わせたドジョウ養殖技術を確認する。養殖技術の普及により、ドジョウ養殖の展開と、養殖業者の安定生産を図る。	ドジョウ養殖の初期飼育技術を確認する。 また、現地調査とこれに基づく養殖技術の改良により、農山漁村における地域の特性に合わせたドジョウ養殖技術を確認する。	23	26	B	本研究では、ドジョウの好適な採卵条件、淡水ワムシの連続培養、淡水ワムシ給餌による効果を明らかにし、ドジョウ初期飼育の技術開発を達成し、今後のドジョウ養殖の効率化及び経費削減に向けて期待される。	有用な研究成果が得られていると感じました。細かい点で恐縮ですが、様式3付属資料の表11に関して、H23の10IUのふ化率は93.5%、H24の10IUふ化率は48.1%と異なるように思います。図1では、「個体密度は5~1,108個体/mLで推移し」とのことで、ばらつきが大きいように思います。なお、データを示す場合には、統計解析の結果を分かりやすく明記するようにして下さい。(仲川)